

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-171650

(43)公開日 平成 6 年(1994) 6 月21日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 25/34	A	6540-3E		
25/20	Q	6540-3E		
G 0 9 F 23/00	A	6447-5G		

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-351776

(22)出願日 平成 4 年(1992)12月 7 日

(31)優先権主張番号 実願平4-43350

(32)優先日 平 4 (1992) 5 月28日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(31)優先権主張番号 実願平4-76450

(32)優先日 平 4 (1992)10月 7 日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(71)出願人 391019201

有限会社東宏プロセス

岐阜県土岐郡笠原町3172- 1

(72)発明者 各務 和雄

岐阜県土岐郡笠原町3172- 1

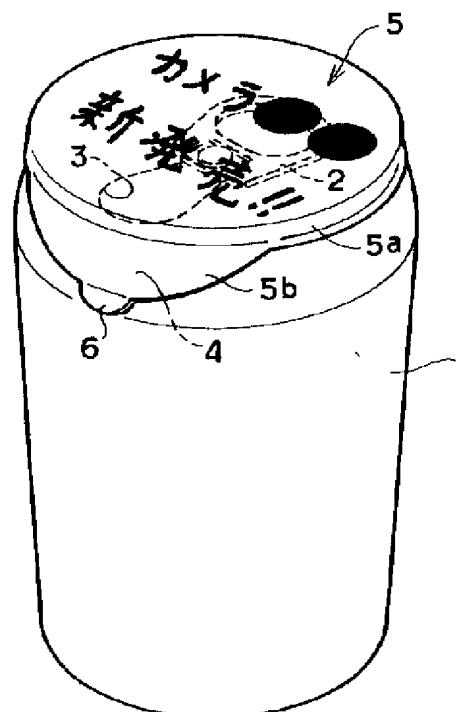
(74)代理人 弁理士 武蔵 武

(54)【発明の名称】 飲料缶を利用した広告方法

(57)【要約】

【目的】 飲料缶 1 の上面と胴部を有効に利用する効果的な広告方法を提供する。

【構成】 本発明の広告方法は、コーヒーや清涼飲料等を入れた飲料缶 1 と、塩化ビニール系の合成樹脂以外の素材で形成され前記飲料缶 1 の上面をカバーし得る形状になし且つ内側面に接着剤を塗布した衛生カバーシール 5 とを使用する。そして、前記衛生カバーシール 5 の外側面に企業或いは公共団体等の広告を表示するようになし、該衛生カバーシール 5 を飲料缶 1 の上面に被着することによってその飲料缶 1 の上面を広告領域として活用すると共に飲料缶 1 の上面から剥した衛生カバーシール 5 を飲料缶 1 の胴部に貼着せしめるようにしたことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 コーヒーや清涼飲料等を入れた飲料缶と、塩化ビニール系の合成樹脂以外の素材で形成され前記飲料缶の上面をカバーし得る形状になし且つ内側面に接着剤を塗布した衛生カバーシールと、を使用し、前記衛生カバーシールの外側面に企業或いは公共団体等の広告を表示するようになし、該衛生カバーシールを飲料缶の上面に被着することによってその飲料缶の上面を広告領域として活用すると共に飲料缶の上面から剥した衛生カバーシールを飲料缶の胴部に貼着せしめるようにしたことを特徴とする飲料缶を利用した広告方法。

【請求項2】 前記衛生カバーシールの内側面と飲料缶の上面との間に隙間を設け、衛生カバーシールの接着剤が飲料缶の上面に接触しないようにしたことを特徴とする請求項1記載の飲料缶を利用した広告方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、清涼飲料やコーヒー等を入れた飲料缶を利用して企業や公共団体等の広告を行うようにした広告方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】現在の広告メディアは、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、看板、ポスター等が主流である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】印刷物による広告は、新聞や雑誌等を媒体として行われるが、これらは購読者がある程度限定されているから殆どの場合テレビやラジオに比べて広告効果が薄い。ところで缶入り飲料の消費量は、年間約300億本～400億本であり、1日約1億本の飲料缶が市場に出回っている。缶入りの飲料は消費者層が広い、飲料缶は多くの人の目に触れる。本発明は、係る点に着目してなされたもので、その目的は、飲料缶の上面と胴部を有効に利用して効果的な広告方法を提供することにある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため本発明は、コーヒーや清涼飲料等を入れた飲料缶と、塩化ビニール系の合成樹脂以外の素材で形成され前記飲料缶の上面をカバーし得る形状になし且つ内側面に接着剤を塗布した衛生カバーシールと、を使用し、前記衛生カバーシールの外側面に企業或いは公共団体等の広告を表示するようになし、該衛生カバーシールを飲料缶の上面に被着することによってその飲料缶の上面を広告領域として活用すると共に飲料缶の上面から剥した衛生カバーシールを飲料缶の胴部に貼着せしめるようにした広告方法を提供する。また、好ましくは、前記衛生カバーシールの内側面と飲料缶の上面との間に隙間を設け、衛生カバーシールの接着剤が飲料缶の上面に接触しないようにするのがよい。

## 【0005】

【作用】消費者は、プルタブを外す前に必ず衛生カバーシールを見るから、衛生カバーシールの広告に最低一度は目を通す。剥した衛生カバーシールは、内側面の接着剤を利用して飲料缶の胴部に貼り付けておくことができ、ゴミとして散乱する虞がなく、しかも飲料缶の胴部に貼り付いている状態で再度人目に触れる可能性が高い。また、衛生カバーシールは、飲料缶に貼り付いたまま捨てられてリサイクル処理場に運ばれ、飲料缶を再生する加熱工程で焼失する。なお、衛生カバーシールの材質に塩化ビニール系の合成樹脂を使用すると、焼却時に悪臭が発生するため好ましくない。また、衛生カバーシールの内側面と飲料缶の上面との間に隙間を設けて衛生カバーシールの接着剤が飲料缶の上面に接触しないようにしておくことにより、衛生カバーシールを剥す際に軽い力で捲ることができる。

## 【0006】

【実施例1】以下に本発明の実施例1を図1、2を参照しつつ説明する。なお、図1は飲料缶の斜視図、図2は要部の一部拡大断面図である。飲料缶1は、スチールやアルミを加工した周知のもので、内部に清涼飲料やコーヒー等が充填されている。飲料缶1の上面にはプルタブ2が設けられており、該プルタブ2により開かれる注ぎ口3と、その注ぎ口3に口を当てて上下両唇が触れる領域が飲み口4である。衛生カバーシール5は、飲料缶1の上面に嵌合する円形の逆トレイ形状であり、浅い周壁5aが飲料缶1の周縁凸部1a外周に嵌まる。衛生カバーシール5には、周壁5aの一部から舌片5bが突設されており、該舌片5bの裏面を含む衛生カバーシール5の内側面の全域に接着剤が塗布される。なお、舌片5bの先端中央に摘み片6が突設されているが、この摘み片6には接着剤を塗布しない。衛生カバーシール5は、塩化ビニール系の合成樹脂以外の合成樹脂フィルムや防水加工をした紙等を使用し、透明・不透明の何れであってもよい。

【0007】次ぎに広告方法を説明する。まず、衛生カバーシール5の外側面に、企業や公共団体等の広告を印刷表示する。この広告は、例えば、企業の求人広告や商品広告、放送番組の広告、選挙の投票日、交通標語等公共団体や公的機関のお知らせ、イベントの企画広告等その他、飲料自体の製品PRであってもよい。なお、衛生カバーシール5を使って正月やクリスマス等の季節商品用の広告を印刷するようにすれば、胴部の印刷を変更する必要がなくなるため経費が節約できる。また、衛生カバーシール5の裏側面にも印刷を施して前記広告の詳細を表示したり、或いはくじ的な要素を盛り込んで販売促進効果を持たせることもできる。次ぎに、前記広告を印刷した衛生カバーシール5を飲料缶1の上面に被せる。そうすると、衛生カバーシール5の周壁5aと飲料缶1の周縁凸部1a及び舌片5bと飲料缶1の胴部が接着剤の作用で一体に接合される。なお、飲料缶1の上面と衛生

カバーシール5の内側面との間には飲料缶1の周縁凸部1aによって隙間Sが形成されているため両者が接合することはない。このように衛生カバーシール5を被着した状態では、飲料缶1の飲み口4が衛生カバーシール5で完全に覆われるため衛生的である。

【0008】而して、消費者は、プルタブ2を外す前に必ず衛生カバーシール5を見るから、衛生カバーシール5の広告に最低一度は目を通す。剥した衛生カバーシール5は、ゴミとして散乱させないために内側面の接着剤を利用して飲料缶1の胴部に貼り付けておく。こうして飲料缶1の胴部に貼り付いた衛生カバーシール5は広告面が外側に向かい再度人目に触れる可能性がある。従って、日量約1億本の飲料缶1が強力な広告媒体として有効に機能する。また、衛生カバーシール5は、飲料缶1に貼り付いたまま捨てられてリサイクル処理場に運ばれ、飲料缶1を再生する加熱工程で完全に焼失する。なお、衛生カバーシールの材質に塩化ビニール系の合成樹脂を使用すると、焼却時に悪臭が発生するため好ましくない。

【0009】なお、図示しないが、衛生カバーシール5と飲料缶1の間にガーゼや紙等を介装して飲み口4を保護したり、或いは、該ガーゼや紙に、例えば手拭き用の紙ナプキンに使用されているような消毒液を染み込ませたりすればさらに衛生的である。この具体的形態は、現在市販されているガーゼ付き絆創膏をイメージすればよい。

#### 【0010】

【実施例2】図3、4は実施例2を示すものである。上記実施例1は、衛生カバーシール5に舌片5bを突設したものであるが、実施例2のように舌片5bを設けなくとも広告機能は変わらない。また、図3、4のように飲料缶1の周縁凸部1aに合わせて衛生カバーシール5の上面に凹部5cを形成し、衛生カバーシール5の内側面と飲料缶1の上面とを接着させてもよい。この場合、接着剤の強さを加減して剥す際に支障がない接着力に調整しておく必要がある。

#### 【0011】

【発明の効果】以上のように本発明は、第一に缶入りの飲料は流通量が膨大でその上消費者層が広いため年齢・

性別に拘らず広範囲の人に行き渡ること、第二に消費者が飲料缶のプルタブを外す前に必ず衛生カバーシールの広告に目を通すこと、第三に飲料缶の上面から剥した衛生カバーシールを該飲料缶の胴部に貼着することによって飲料を飲み終えるまで広告が見えること、等の理由によって、印刷による広告手段の中でも突出した広告効果を発揮する。また、飲料缶の飲み口をカバーするようにして衛生カバーシールを設けたため、例え飲料缶の衛生管理がずさんであっても安全に飲料を飲むことができ、且つ、衛生カバーシールを飲料缶の胴部に貼着するようにしたため、使い終わった衛生カバーシールがゴミとなって散乱する虞がない。そして、衛生カバーシールは飲料缶に貼り付いたまま捨てられてリサイクル処理場に運ばれ、飲料缶を再生する加熱工程で完全に焼失する。従って、環境に悪影響を与えない。

【0012】如上のように、本発明の広告方法を実施することによって、消費者は衛生カバーシールが飲み口を衛生的にカバーしているから一々飲み口を拭く煩わしさがなくなる利益を享受し、飲料メーカーは衛生カバーシールのコストを広告収入で賄いながら衛生カバーシールによる顧客吸引力を得る利益を享受し、さらに広告主は今までにない形態で効果的な広告が行える、というように三者の利益がうまく循環し、高い経済効果を上げることができる。また、請求項2のように衛生カバーシールの内側面と飲料缶の上面との間に隙間を設けて衛生カバーシールの接着剤が飲料缶の上面に接触しないようにしておくことにより、衛生カバーシールを剥す際に軽い力で捲ることができ、しかも衛生カバーシールの接着力を低下させる虞がない、等多くの効果がある。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例1を示す飲料缶の斜視図である。

【図2】 要部を示す一部拡大断面図である。

【図3】 実施例2を示す飲料缶の斜視図である。

【図4】 要部を示す一部拡大断面図である。

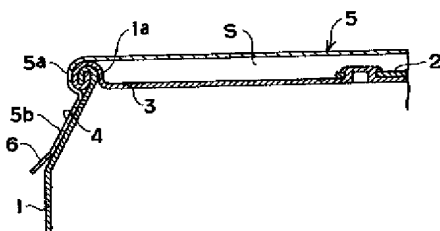
#### 【符号の説明】

1…飲料缶

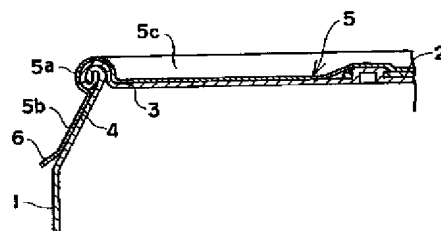
5…衛生カバーシール

S…隙間

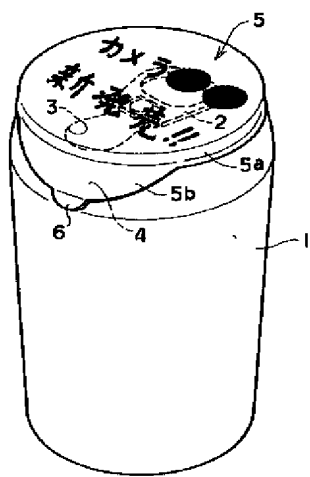
【図2】



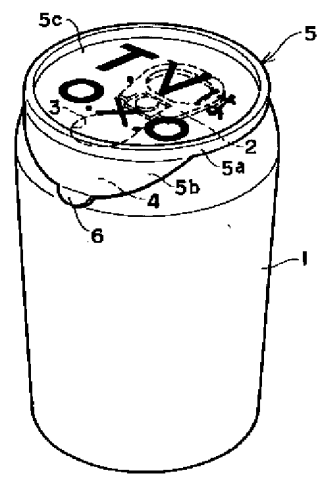
【図4】



【図1】



【図3】



**PAT-NO:** JP406171650A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 06171650 A  
**TITLE:** METHOD FOR ADVERTISEMENT  
USING BEVERAGE CAN  
**PUBN-DATE:** June 21, 1994

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
KAGAMI, KAZUO	

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
KK TOKO PROCESS	N/A

**APPL-NO:** JP04351776  
**APPL-DATE:** December 7, 1992

**INT-CL (IPC):** B65D025/34 , B65D025/20 ,  
G09F023/00

**US-CL-CURRENT:** 206/459.5

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To provide a method of placing an effective advertisement on a beverage can mostly utilizing its top face and body part.

**CONSTITUTION:** For advertising purpose, a beverage can 1 containing coffee or refreshing beverage is used in combination with a sanitary

cover seal 5 made in such a form as to cover the top face of a beverage can 1 made from the material other than the synthetic resin of vinyl chloride and having its inner surface coated with an adhesive. The outer surface of the sanitary cover seal 5 bears the advertisement requested by an enterprise or public organization. By attaching the sanitary cover seal 5 to the top face of the beverage can 1, its top face is effectively used as an advertising area and the sanitary cover seal 5 is removed from the top face thereof and reattached to the body part thereof.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio